

VI 中東・アフリカ

中東・北アフリカ地域概観

■ 回復した中東・北アフリカ経済

IMF の推計によれば、2010 年の中東・北アフリカ (IMF が定義する MENA) の実質 GDP 成長率は 3.8%と 2009 年の 1.8%から上昇した。産油国 (IMF が定義する MENAP Oil Exporters) では、2009 年にマイナス成長に陥ったクウェート、リビア、アラブ首長国連邦 (UAE) が、それぞれ 2.0%、4.2%、3.2%のプラス成長に回復、2009 年に一ケタ台の成長に落ち込んだカタールが 16.3%を記録するなど、全体では 3.5%の成長となった。一方、非産油国 (IMF が定義する MENA Oil Importers) では、エジプトが 5.1%、チュニジアが 3.7%など、すべての国が 3%以上を記録、全体では 4.5%の成長となった。このように、2010 年は、全体的に、2008 年の世界的な金融危機の影響から回復した。しかし、2011 年は政情面からの不安定要因もかかえる。

2010 年 12 月にチュニジアの地方都市で発生した反政府デモは、わずか 1 カ月弱後にベンアリ長期政権を打倒、中東・北アフリカの大国エジプトに飛び火した。チュニジア同様、エジプトでも、わずか 18 日後にムバラク長期政権が崩壊、暫定政権が国政を担っており、民主的な選挙による新政権樹立が待たれる状況だ (2011 年 7 月末時点)。

また、リビアでは内戦状態が続き、シリアでは治安当局とデモ隊の衝突が長期化するなど、中東・北アフリカの政情不安は、石油価格の上昇につながるなど、世界経済にも大きな影響を与えている。各国の騒乱の背景には、部族問題、宗派問題など、各国による違いもあり、一言で総括することは難しいが、格差社会に対する不満などは共通している。

IMF も、2011 年の中東・北アフリカの経済成長については、国によりばらつきが出るとした。石油の世界的な需要増に対応し、生産を拡大させる産油国は 4.9%に上昇する一方、社会的な混乱の影響で観光収入や直接投資の減少が予想されるエジプトやチュニジアを含む非産油国は 1.9%に減速し、全体で 4.1%とする見通しを立てている。

湾岸協力会議 (GCC) 加盟国は、経済の好調が予想されるが、2011 年初めに実現させるとしていた域内関税同盟の完全実施に向けた調整を断念した。輸入国の税関が徴収した関税を域内の消費国に配分するメカニズムが、

最終合意に至っていないことが原因だ。

GCC の他国との通商関係では、2011 年 1 月、マレーシアとの経済・商業・投資・技術協力に関する枠組み協定に調印した。今後、同枠組み協定をベースに、自由貿易協定 (FTA) 交渉が開始されるのか注目される。

■ 貿易相手国としてアジアの新興国が台頭

国連貿易開発会議 (UNCTAD) の統計をもとに、中東・北アフリカ地域の 19 カ国 1 地域 (注 1) の 2010 年の貿易額をみると、輸出額は 1 兆 1,965 億 3,835 万ドル (前年比 28.3%増)、輸入額は 9,143 億 5,723 万ドル (16.5%増) だった。

域内最大の輸出国は、サウジアラビアの 2,540 億ドル (32.1%増) で、次いで UAE (2,350 億ドル、34.5%増)、トルコ (1,140 億ドル、11.6%増)、イラン (1,010 億ドル、28.1%増) と続き、1,000 億ドルを超えた上位 4 カ国で、輸出額の約 59%を占めた。新興国が牽引した世界経済の回復と資源価格の上昇が、石油・天然ガスなどの鉱物性生産品を輸出主要品目とする、域内からの輸出増加に寄与した。

2010 年の輸出相手国・地域 (注 2) を IMF 統計でみると、従来からの主要輸出先である EU、米国、日本などへは、前年比で 20%以上増と回復した。また、52.2%増の中国、43.7%増のインドなどの輸出額は拡大し、米国に迫る勢いとなった。アジアの新興国・開発途上国向けは 44.0%増、他地域を含む新興国・開発途上国全体では 35.4%増となった。この結果、先進国向け輸出の比率は、前年の 54.5%から 52.4%に低下、新興国・開発途上国向けの比率が高まった。

次に輸入を UNCTAD の統計をもとにみると、域内最大の輸入国は、トルコの 1,855 億 3,500 万ドル (前年比 31.7%増) で、次いで UAE (1,700 億ドル、21.4%増)、サウジアラビア (970 億 7,730 万ドル、1.6%増)、イラン (626 億 7,000 万ドル、24.2%増)、イスラエル (612 億 900 万ドル、24.2%増) と続いた。

輸入相手国・地域を IMF 統計でみると、先進国からの輸入は前年比 10.4%増、新興国・開発途上国からの輸入が 25.4%増となり、先進国が全体の輸入に占める比率は 53.4%から 50.1%に低下した。

中国からの輸入は、域内主要国である UAE (14.0%増)、トルコ (35.5%増)、サウジアラビア (15.4%増) などが好調だった。また、米国、EU からの輸入が前年比減となったイラン (40.1%増)、米国、EU、日本からの輸入が前年比減

となったイラク(95.9%増)などでも中国からの輸入は大きく増加した。域内で中国からの輸入が前年比減となった国は、アルジェリア(7.2%減)とカタール(1.5%減)の2カ国だけだった。

インドからの輸入をみると、UAEが域内最大の57.5%を占めたが、同国にとっても、インドが最大の輸入先国となった。インドからの輸入が前年比減となった国は、アルジェリア(2.1%減)だけだった。

韓国からの輸入額は日本をわずかに下回ったが、トルコでは52.8%増と大幅に伸びた結果、トルコは域内でUAEに次いで2番目に韓国からの輸入が多い国となった。韓国とトルコは、2010年4月からFTA交渉を開始しており、今後の交渉の行方によっては、両国の貿易関係がさらに深化する可能性がある。

UNCTADの統計で2009年中東・北アフリカの輸入の構成比を品目別にみると、機械類・輸送機器が約3分の1を占め、次いで工業製品(原料別製品)が18.3%、食料品および動物が8.9%と続いた。

日本からの輸入では、機械類・輸送機器が69.7%と構成比が一番大きく、さらに詳細をみると自動車などを含む道路用車両が輸入総額の44.5%で、全世界からの道路用車両の輸入総額の22.7%を占めた。

■ 主要国・地域との貿易は増加傾向

主要相手国・地域の統計で、中東・北アフリカ(注3)の貿易をみると、EUの2010年中東・北アフリカからの輸入額は、2,476億6,180万ドル(前年比0.2%増)だった。国別ではトルコ(556億6,803万ドル、0.1%増)からの輸入が最も多く、リビア(380億6,082万ドル、0.3%増)、アルジェリア(274億8,271万ドル、0.1%増)と北アフリカ諸国が続く、上位3カ国で輸入額の49.0%を占めた。次いでサウジアラビア(210億5,349万ドル、0.3%増)、イラン(188億5,546万ドル、0.4%増)のペルシア湾岸の国が続いた。品目別では、石油などの鉱物性燃料が29.2%増となり輸入総額の5割を超えたが、2008年の水準には達しなかった。

EUから中東・北アフリカへの輸出額は、前年比0.1%増の2,994億4,099万ドルだった。国別では、輸入同様、トルコ(803億4,680万ドル、0.3%増)が最大となり、UAE(363億6,363万ドル、0.1%増)、サウジアラビア(294億5,360万ドル、0.1%増)、アルジェリア(204億4,759万ドル、0.0%増)の産油国が続いた。品目別では、主要品目である自動車などの輸送機器が26.3%増と回復した。

米国の中東・北アフリカからの輸入額は、986億4,719万ドル(26.9%増)で、国別ではサウジアラビアが314億2,008万ドル(42.5%増)で最大、次いでイスラエル(209億7,487万ドル、11.9%増)、アルジェリア(145億1,796万ドル、35.5%増)、イラク(121億4,168万ドル、31.1%増)

と続き、上位4カ国で輸入の約8割を占めた。品目別では、鉱物性燃料が33.8%増で67.8%を占めた。

米国から中東・北アフリカへの輸出額は、986億4,719万ドル(26.9%増)で、国別ではUAEが116億3,832万ドル(4.7%減)で最大、次いでサウジアラビア(115億9,095万ドル、7.4%増)、イスラエル(112億7,154万ドル、17.9%増)、トルコ(105億4,639万ドル、48.7%増)と続き、100億ドルを越えた上位4カ国で、輸出の64.0%を占めた。品目別では、自動車や航空機などの輸送機器が13.9%増と好調で、最大の構成比(28.3%)を占めた。

中国の中東・北アフリカからの輸入額は、968億685万ドル(6.9%増)で、国別ではサウジアラビア(328億6,202万ドル、39.4%増)、イラン(182億3,574万ドル、37.9%増)、オマーン(97億5,676万ドル、82.6%増)と産油国が上位を占めた。品目別では、鉱物性燃料が76.7%の高い構成比となった。

中国から中東・北アフリカへの輸出額は902億1,378万ドル(22.8%増)で、国別では、UAE(212億3,784万ドル、14.4%増)、トルコ(119億5,977万ドル、43.5%増)、イラン(110億9,671万ドル、40.1%増)、サウジアラビア(103億6,840万ドル、15.4%増)の4カ国が100億ドルを越えた。主要品目は、機械類(18.8%増)・電気機器(12.2%増)、衣類を含む繊維用繊維(24.4%増)などだった。

韓国と日本の中東・北アフリカからの輸入では、鉱物性燃料が輸入総額に占める比率が、引き続き高かった。詳細をみると、韓国は95.0%、日本は97.5%で過去15年(1995年の構成比は90.4%)の間に、緩やかに上昇している。

韓国の中東・北アフリカからの輸入額は、813億619万ドル(31.1%増)で、国別ではサウジアラビア(268億2,000万ドル、35.9%増)が最大で、輸入の約3分の1を占めた。次いで、UAE(121億7,013万ドル、30.7%増)、カタール(119億1,545万ドル、42.1%増)、クウェート(108億5,015万ドル、35.8%増)の湾岸諸国が続いた。

韓国から中東・北アフリカへの輸出額は319億4,002万ドル(20.8%増)、国別ではUAE(54億8,705万ドル、10.2%増)、イラン(45億9,672万ドル、15.1%増)、サウジアラビア(45億5,667万ドル、18.2%増)、トルコ(37億5,291万ドル、41.1%増)の上位4カ国で約6割を占めた。主要品目別は、自動車などの輸送機器で、構成比は46.1%を占めた。

日本の中東・北アフリカからの輸入額は、1,201億1,627万ドル(27.8%増)で、国別ではサウジアラビア(358億9,099万ドル、23.0%)、UAE(292億8,521万ドル、28.9%増)、カタール(217億158万ドル、36.3%増)、イラン(111億6,591万ドル、20.0%増)、クウェート(102億8,965万ドル、14.5%増)の上位5カ国で輸入の9割を占めた。日本から中東・北アフリカへの輸出額は309億9,315万ドル

(前年比 19.7%増)で、国別では UAE (73 億 3,268 万ドル, 13.0%増), サウジアラビア (64 億 8,304 万ドル, 20.3%増), オマーン (31 億 1,400 万ドル, 33.3%増)と GCC の加盟国が上位 3 位までを占めた。4 位はトルコ (25 億 6,065 万ドル, 60.2%増), 5 位はイラン (20 億 7,881 万ドル, 26.1%増)で、人口規模の大きな国が上位に入った。品目別では、輸送機器が 45.3%増で輸出の過半 (53.5%) を占めたが、機械類などは 7.2%減で、構成比は前年の 30.7%から 23.8%に低下した。

■ 本格回復に至っていない投資

UNCTAD によると、中東・北アフリカ (注 1) の 2010 年の対内直接投資 (ネット, フロー) は、前年比 9.8%減の 822 億 8,800 万ドルとなった。最大の投資受入国は、サウジアラビア (281 億 500 万ドル, 12.4%減), 次いでトルコ (90 億 7,100 万ドル, 7.8%増), エジプト (63 億 8,600 万ドル, 4.9%減), カタール (55 億 3,400 万ドル, 31.9%減), イスラエル (51 億 5,200 万ドル, 16.1%増)が続いた。

調査会社のトムソン・ロイターによると、2010 年の中東・北アフリカ (注 4) の対内クロスボーダー M&A 件数は、225 件と前年の 174 件からは増加したものの、金融危機前の 2007 年の 262 件, 2008 年の 298 件を下回った。国別では、トルコが 70 件 (前年 50 件) で最も多く、次いでイスラエル 32 件 (20 件), エジプト 27 件 (14 件), UAE 26 件 (18 件) と続いた。大型案件としては、オーストリアのエネルギー会社 OMV が、トルコの石油販売会社 ペトル・オフィシ の株式 54.174% を、トルコのドアン・グループから 13 億 9,190 万ドルで買収 (総持株比率を 95.72%) した事例などがあつた。

UNCTAD によると、中東・北アフリカの 2010 年の対外直接投資は、前年比 20.2%減の 246 億 3,800 万ドルだった。前年の 4.7 倍のイスラエルが 79 億 6,000 万ドルで 1 位, 次いで、サウジアラビア (39 億 700 万ドル, 79.5%増), クウェート (20 億 6,900 万ドル, 76.0%減), UAE (20 億 1,500 万ドル, 26.0%減) などの産油国が続いた。

トムソン・ロイターによると、2010 年の中東・北アフリカからの対外クロスボーダー M&A 件数は 211 件と前年の 193 件から増加したものの、対内同様、金融危機前の水準には至らなかった (2007 年 337 件, 2008 年 380 件)。受入国は、米国 31 件 (22 件), ヨルダン 11 件 (12 件), 英国, フランス, ドイツ, UAE, オーストラリア, インドが 9 件と続いた。湾岸諸国の投資機関による、金融部門への M&A の事例などがあつた。

■ 盛況の内に終了した日本・アラブ経済フォーラム

日本の 2010 年の対外直接投資統計 (国際収支ベースをドル換算, ネット, フロー) によると、対中東投資は 3 億

4,800 万ドルの引き揚げ超過だった。うち対サウジアラビアは 1 億 1,700 万ドル (化学・医薬分野など) で 1 位だった一方、対 UAE は 4 億 9,800 万ドルの引き揚げ超過 (卸売り・小売業分野など) だった。なお、両国が加盟する GCC との FTA 交渉については、2009 年 3 月に、非公式で開催された第 4 回中間会合以来、進展はない。

2010 年 12 月に、チュニジアの首都チュニスで開催された「第 2 回日本・アラブ経済フォーラム」には、日本とアラブ諸国双方から、閣僚、ビジネスパーソンなど約 1,100 名が参加した。フォーラムではエネルギー環境分野、人材育成、科学技術分野での協力を進めていくことなどを謳った「チュニジア宣言」が発表された。

(注 1) アルジェリア, バーレーン, エジプト, イラン, イラク, イスラエル, ヨルダン, クウェート, レバノン, リビア, モロッコ, パレスチナ自治区, オマーン, カタール, サウジアラビア, シリア, チュニジア, トルコ, アラブ首長国連邦, イエメン。

(注 2) 注 1 からパレスチナ自治区を除く。

(注 3) EU は、注 1 のみ対象。その他は、(注 1) に西サハラを追加。

(注 4) 注 1 からパレスチナ自治区を除き、西サハラを追加。

サブサハラ (サハラ砂漠以南) ・アフリカ地域概観

■ 産油国・低所得国を中心に急回復

IMF の推計によれば、2010 年のサブサハラ・アフリカ (以下、サブサハラ) の実質 GDP 成長率は 4.9%と 2009 年の 2.8%から大幅に上昇した。世界経済の回復に伴って、輸出が増加するとともに、引き続き堅調な国内需要が牽引したとみられている。

産油国では、2004~08 年に二ケタ台の伸びを記録したアンゴラ、赤道ギニアがそれぞれ 1.6%, 0.8%減と依然として低迷しているものの、サブサハラ最大の産油国であるナイジェリアが 8.4%となったため、6.2%の成長率を記録した。

低所得国でも 2009 年の 4.8%に引続き、5.4%と堅調であった。中所得国では、南アフリカ以外の伸びが 5.7%とほぼ金融危機以前の水準に回復したものの、南アフリカは 2.8%と低い伸びにとどまった。

■ 資源価格上昇に伴い輸出が大幅に増加

UNCTAD によれば、サブサハラ 48 カ国の 2010 年の輸出額は 3,399 億 3,396 万ドル (前年比 31.2%増), 輸入額は 2,280 億 545 万ドル (7.4%増) であった。

域内最大の輸出国は、ナイジェリアの 865 億 6,791 万ドル (前年比 64.9%増) で、次いで南アフリカ (858 億 3,020 万ドル, 29.0%増), アンゴラ (464 億 3,710 万ドル, 13.3%増), スーダン (105 億ドル, 34.0%増), 赤道ギニ

ア(104 億ドル, 17.9%増), コートジボワール(103 億 2,270 万ドル, 1.7%減)と続いた。金や白金族類金属, ダイヤモンドなどの貴石・貴金属や石炭などを輸出している南アフリカ, カカオを輸出しているコートジボワールを除き, 産油国が上位を占めている。

国連統計で品目別に 2010 年の輸出をみると輸出の約半分を占める鉱物性燃料が 20.7%増, 15%を占める工業製品が 40.2%増となっている。近年, サブサハラでは油田開発が活発に行われており, 2010 年の原油生産量は, 前年比 4.8%増の日量 602 万バレルに達しており, 過去 10 年で生産量は 50%増加している。生産量の増加と価格の高騰により, 輸出に占める原油の割合も上昇しており, 南アフリカを除いた輸出に占める原油の割合は 60~70%程度に達している。また, 工業製品の多くは, ダイヤモンドなどの貴石・半貴石やプラチナ, 銅などの非鉄金属製品などであり, 一次産品が輸出に占める割合は, 2009 年で, サブサハラ全体では 83.2%, 南アフリカを除けば 91.2%に達している。国際原油輸出価格は, 2009 年の 61.86 ドル/バレルから 2010 年には 28.7%増の 79.64 ドルに, また, 銅価格も 46.3%上昇しており, 2009 年に大幅に低下した資源価格が回復したことが, アフリカの輸出増加につながった。

2010 年の輸出先を IMF 統計でみると, 地域としては EU 向けが 680 億 2,753 万ドル(19.9%増)で最も多いが, 国別では, 米国向けが最も多く 602 億 2,990 万ドル(40.2%増), 次いで中国(502 億 8,154 万ドル, 61.5%増)となった。近年, 中国やインド, ブラジルなどの新興国・開発途上国向け輸出の割合は年々上昇しており, 2010 年には新興国・開発途上国向けの輸出は 42.5%増と大幅に増加, 輸出に占める割合は 45.5%まで上昇している。一方, 先進国向け輸出は, 29.1%増で, 比率は 53.0%に低下した。

2010 年の輸入を UNCTAD 統計でみると, 輸入では南アフリカが 767 億 6,430 万ドル(前年比 2.7%増)で域内最大の輸入国で, ナイジェリア(442 億 3,527 万ドル, 13.4%増), アンゴラ(165 億 7,400 万ドル, 26.8%減), ケニア(114 億 3,157 万ドル, 12.0%増), ガーナ(108 億ドル, 34.2%増)と続いている。

輸入相手国・地域を IMF 統計でみると, 先進国からの輸入は前年比 14.6%増となったものの, 新興国・開発途上国からの輸入が 22.5%増となったため, 先進国が全体の輸入に占める割合は 44.1%に低下した。サブサハラの輸入額は 2000 年から 2010 年で約 4 倍に増加したが, 先進国からの輸入の割合は, 2000 年の 63%から年々低下している。この間, 新興国・開発途上国からの輸入は 6 倍に拡大, 特に中国が 16 倍, インドが 11 倍など, アジア新興国・開発途上国からの輸入は 11 倍に増加しており, アジア新興国・開発途上国からの輸入の割合は 2000 年の

9.2%から 2010 年 24.1%に上昇している。2010 年の日本からの輸入額は 96 億 7,900 万ドル, 前年比 16.8%増と大幅に増加したが, シェアは 3.0%とほぼ横ばいであった。

2010 年の品目別統計は未発表のため, UNCTAD の統計で 2009 年の輸入をみると, 機械類・輸送機器が全体の 3 分の 1 を占め, 次いで鉱物性燃料 15.8%, 工業製品(原料別製品)15.6%, 化学製品 11.0%となっている。日本からの輸入では, 機械類・輸送用機器が 3 分の 2 を占め, その中でも自動車・同部品などが多く, 全体の 45.4%を占めている。サブサハラの自動車・同部品などの輸入は全体の 8.3%にすぎず, 日本からの輸入が拡大しない要因の一つとなっている。

■ 中国の原油輸入が増加

主要相手国の統計で, サブサハラの貿易をみると, EU の 2010 年のサブサハラからの輸入額は, 781 億 5,400 万ドル(15.8%増)で, 国別では南アフリカ(231 億 2,200 万ドル, 11.6%増)からの輸入が最も多く, 次いでナイジェリア(193 億 6,300 万ドル, 32.6%増), アンゴラ(51 億 1,700 万ドル, 25.2%減), コートジボワール(42 億 6,700 万ドル, 0.1%増)となっている。品目別では全体の 4 割を占める石油や石炭などの鉱物性燃料が 12.9%増, 1 割を占める貴石・貴金属等が 29.4%増となった。

EU からの輸出額は前年比 13.1%増の 819 億 6,900 万ドルであった。輸出の 3 分の 1 を占め最大の輸出相手国である南アフリカ(27.0%増), 2 割弱のナイジェリア(11.2%増)向けの輸出が拡大する一方で, 1 割弱のアンゴラ向け輸出は 13.8%減となり, 南アフリカ向けを除く輸出の伸び率は 7.1%増であった。品目別にみると, 輸出の 3 割を占める一般機械・電気機器は 1.5%増にとどまったものの, 1 割強を占める自動車などの輸送機器が 11.7%増となった。石油精製品の輸出が大幅に増加したため, 鉱物性生産品(40.6%増)が大幅に増加した。サブサハラでは石油精製設備を持っている国は, 南アフリカ, ナイジェリア, ケニアなどの一部の国であり, また精製能力が消費の拡大に追いついておらず, 年々, 石油製品の輸入が拡大している。このため, EU の対サブサハラ輸出に占める石油精製品の割合は 15%程度までに上昇している。特に南アフリカ以外のサブサハラ諸国への輸出では石油精製品の割合は 2 割に達している。南アフリカを除く輸出では, 4 分の 1 を占める一般機械・電気機器(7.5%減), 1 割の輸送機器(6.9%減)が減少する一方で, 石油精製品などの鉱物性生産品(38.7%)の輸出が大幅に増加した。

米国のサブサハラからの輸入額は 650 億 1,855 万ドル(38.6%増)で, 国別ではナイジェリアが 305 億 1,595 万ドル(59.5%増)で最も多く, 次いでアンゴラ(119 億 4,688 万ドル, 27.9%増), 南アフリカ(82 億 373 万ドル, 39.6%増), コンゴ共和国(33 億 1,601 万ドル, 6.8%増), 赤道ギ

ニア(22億1,587万ドル、11.0%減)と続く。米国の原油輸入の約2割がサブサハラからの輸入であり、サブサハラからの輸入の約8割が原油である。2010年の原油輸入量はアンゴラ、コンゴ共和国、チャドなどが減少したものの、ナイジェリアから輸入量は28.6%増となった。また、輸入の6%を占める貴石・貴金属の輸入額も58.9%増と大幅に増加した。

米国からの輸出額は170億6,278万ドル(前年比12.6%増)であった。輸出の3分の1を占める南アフリカ向け輸出が26.4%増と大幅に増加、ナイジェリア(構成比23.7%、前年比2.3%増)、ガーナ(5.8%、7.3%増)向け輸出も増加したものの、アンゴラ(7.6%)向け輸出は9.2%減となった。品目別では、自動車や航空機などの輸送機器(22.6%)は南アフリカ、ナイジェリア、ベナンなどへの輸出が増加し、16.7%増に、またナイジェリア、ガーナ向けの石油精製品などが増加した鉱物性生産品(8.4%)は14.6%増、南アフリカおよびエチオピアへの穀物輸出の増加により植物性生産品(8.9%)が11.2%増であった。

中国の2010年のサブサハラからの輸入額は、563億2,323万ドル(前年比52.5%増)と大幅に増加したが、輸入の約6割が原油である。中国の原油輸入の4分の1がサブサハラからの輸入であり、2010年のサブサハラからの原油輸入量は前年比14.1%増、価格の上昇により金額ベースでは49.2%増となった。国別で最も輸入が多かったのは、産油国のアンゴラで228億991万ドル(40.5%増)、次いで貴石・貴金属や合金鉄などを輸入している南アフリカ(114億2,358万ドル、20.3%増)、産油国のスーダン、コンゴ共和国、銅を輸入しているザンビアなどの資源国が並んでいる。中国からの輸出額は442億5,242万ドル(32.1%増)で、域内最大の輸出相手国であり、全体の4分の1を占める南アフリカ向け輸出が46.7%増、15%を占めるナイジェリア向けが22.3%増となったほか、リベリア向け輸出が倍増した。品目別では、南アフリカ、ナイジェリアを中心とする機械類・電気機器(27.6%増)、主にリベリアなどへの船舶などの輸出増加により輸送機器(2.4倍)が大幅に増加、さらに繊維・同製品も25.8%増となった。1995年には繊維・同製品の割合は全体の3割を占めていたが、機械類・電気機器、卑金属・同製品、輸送機器の輸出の増加により割合は年々低下、2010年には17.1%まで低下し、機械類・電気機器が28.4%で最大の輸出品目となっている。

■ 日本、南アフリカとの貿易が大幅に増加

日本の通関統計をドル換算すると2010年の日本の対サブサハラ・アフリカ輸出額は88億1,754万ドル(前年比30.2%増)、輸入額は105億336万ドル(27.4%増)であった。

国別に輸出をみると、域内最大の貿易相手国であり、サブサハラ向け輸出の43.5%を占める南アフリカへの輸出が46.9%増、輸出の21.8%を占める便宜船籍国のリベリアが30.2%増で2位となり、上位2カ国で輸出の65%を占めている。品目別にみると、輸出の6割を占める輸送機器が21.3%増、2割を占める機械類が4.9%増となった。日本のサブサハラ輸出の特徴は、①南アフリカへの比重が極めて大きい、②輸送機械の割合が極めて大きいことである。日本の南アフリカ向け輸出38億3,533万ドルのうち、輸送機器が5割、機械類が3割を占めているが、南アフリカを除くサブサハラ向けの輸出では7割が輸送機器であり、機械類の輸出は8%にすぎない。2010年の完成車の輸出台数は、新車8万8,488台(28.0%増)、中古車19万323台(20.3%増)で、輸出額はそれぞれ18億4,526万ドル(43.2%増)、7億2,698万ドル(24.8%増)だった。新車では、輸出の3分の2を占める南アフリカ向けの輸出が4万2,707台(45.9%増)と大幅に増加した。2007年に1万9,281台まで増加したナイジェリア向け輸出は、2009年には74.2%減となり、2010年も9.3%増の3,286台にとどまった。また2000年以降、急速に増加していたアンゴラ向けも2009年には半減、2010年も15.7%減の2,163台にとどまった。中古車輸出でも南アフリカ向け輸出が3割を占めているが、同国は中古車輸入を禁止しており、同国を経由して、ザンビアやタンザニアなどへ販売されている。南アフリカに次ぐ輸出先のケニアは18.2%増の4万1,477台、タンザニアは21.0%増の1万6,226台であった。

輸入でも南アフリカの割合が高く、7割を占め、次いで発電用燃料の原油を輸入しているスーダンが11.7%を占めている。品目別では、白金族類金属などの貴石・貴金属など、原油などの鉱物性生産品が、それぞれ輸入の3分の1を、フェロクロムなどの卑金属・同製品が1割を占め、これらの品目で輸入の8割を占めている。2010年の輸入額は、貴石・貴金属が50.0%増、鉱物性生産品が4.6%増、卑金属・同製品が67.6%増であった。

■ 南アフリカの対内直接投資が大幅に減少

UNCTADによれば、2010年のサブサハラの対内直接投資(ネット、フロー)は、397億1,400万ドル(前年比10.5%減)であった。最大の投資受入国は、アンゴラ(99億4,200万ドル、14.8%減)、次いでナイジェリア(60億9,900万ドル、29.5%減)、コンゴ民主共和国(29億3,900万ドル、342.8%増)、コンゴ共和国(28億1,600万ドル、35.2%増)、ガーナ(25億2,700万ドル、50%増)となった。一方、サブサハラ最大の経済規模を誇る南アフリカは、前年比71.1%減の15億5,300万ドルであった。上位国には、サブサハラ1位、2位の産油国であるナイジェリア、アンゴラや2010年12月から本格的な原油生産が開始され、さ

らに油田開発が進められているガーナ、コバルトおよび銅の産出国でもあるコンゴ民主共和国などの産油国・資源国が並んでいる。南アフリカでは、既に多くの資源の開発が進んでおり、資源分野への参入の余地が限られている。さらに電力不足の問題、鉱山の国有化をめぐる議論などが対内 FDI の減少につながった可能性がある。

トムソン・ロイターによれば、2010 年のサブサハラの対内クロスボーダー M&A 件数は 124 件と前年の 101 件からは増加したものの、金融危機前の 2007 年の 163 件、2008 年の 168 件を依然として下回った。国別では、南アフリカが 56 件(2009 年 54 件)で最も多く、次いでモーリシャス 11 件(6 件)、ナイジェリア 7 件(4 件)、産業別では、鉱業 48 件(29 件)、製造業 22 件(11 件)、卸・小売業 6 件(14 件)、通信 7 件(9 件)などであった。金額ベースでは、インド通信会社バーティ・エアテルによる携帯電話会社ザイン・グループのアフリカ部門の買収(107 億ドル)、日本電信電話(NTT)による南アフリカ情報通信技術企業ディメンション・データ買収(27 億 32 万ドル)の大型案件があったため、190 億 8,668 万ドルと 2007 年の 121 億 7,769 万ドル、2008 年の 101 億 8,315 万ドル、2009 年の 70 億 2,277 万ドルを大きく上回った。